

Eleven™ Free プラグイン

Version 8.0

法律に基づく表示

© 2008 本書の著作権は Avid Technology, Inc. の事業部 Digidesign（ 以下「 Digidesign」） に帰属します。著作権法に基づき、Digidesign の書面による同意なくして、本書の一部または全部を複製することはできません。

003, 96 I/O, 96i I/O, 192 Digital I/O, 192 I/O, 888|24 I/O, 882|20 I/O, 1622 I/O, 24-Bit ADAT Bridge I/O, AudioSuite, Avid, Avid DNA, Avid Mojo, Avid Unity, Avid Unity ISIS, Avid Xpress, AVoption, Axiom, Beat Detective, Bomb Factory, Bruno, C|24, Command|8, Control|24, D-Command, D-Control, D-Fi, D-fx, D-Show, D-Verb, DAE, Digi 002, DigiBase, DigiDelivery, Digidesign, Digidesign Audio Engine, Digidesign Intelligent Noise Reduction, Digidesign TDM Bus, DigiDrive, DigiRack, DigiTest, DigiTranslator, DINR, D-Show, DV Toolkit, EditPack, Eleven, HD Core, HD Process, Hybrid, Impact, Interplay, LoFi, M-Audio, MachineControl, Maxim, Mbox, MediaComposer, MIDI I/O, MIX, MultiShell, Nitris, OMF, OMF Interchange, PRE, ProControl, Pro Tools M-Powered, Pro Tools, Pro Tools|HD, Pro Tools LE, QuickPunch, Recti-Fi, Reel Tape, Reso, Reverb One, ReVibe, RTAS, Sibelius, Smack!, SoundReplacer, Sound Designer II, Strike, Structure, SYNC HD, SYNC I/O, Synchronic, TL Aggro, TL AutoPan, TL Drum Rehab, TL Everyphase, TL FauxIder, TL In Tune, TL MasterMeter, TL Metro, TL Space, TL Utilities, Transfuser, Trillium Lane Labs, Vari-Fi Velvet, X-Form, XMON は Digidesign および / または Avid Technology, Inc. の商標または登録商標です。Xpand! は米国特許商標局に登録されています。その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Digidesign の Eleven Free は、この製品がモデルとしている従来および現代のアンプ、スピーカー・ キャビネット 、マイクの製造元によって提携、スポンサー、または保証されているものではありません。

製品の機能、仕様、システム要件、供給は予告なく 変更することがあります。

Guide Part Number 9329-59663-01 REV A 11/08

取扱説明書に対するご意見

Digidesign は常に取扱説明書の品質の向上に努めています。私共の取扱説明書に対するご感想、ご指摘、ご意見がありましたら、techpubs@digidesign.com まで電子メールをお送りください。

目次

第 1 章 はじめに 1
システムの必要条件 2
プラグインの使い方 2
凡例. 2
www.digidesign.com について 3

第 2 章 インストール 5
Eleven Free のダウンロード・バージョンをインストールする 5
Eleven Free を削除する 6

第 3 章 入力キャリブレーションとクイックスタート 7
始める前に 7
1 : ギターを接続してソース・インプットを設定する 8
2 : ハードウェアとレベルを設定する 9
3: ProTools のトラックを設定する 10
4. Eleven Free のセットアップ 11
レコーディング済みトラックでの作業 12
次の段階 12

第 4 章 Eleven Free を使う 13
トラックに Eleven Free をインサートする 13
Eleven Frees のパラメータを調整する 14
MIDI と MIDI 学習機能を使う 15
設定（プリセット）. 16
マスター・セクション 16
アンプ・タイプ 18
キャビネット・タイプとコントロール 21
ギターのトラックとシグナル・ルーティング 21
ヒントとアドバイス 25

Eleven Free のシグナル・フロー 27

索引 29

第 1 章

はじめに

Eleven™ Free は、Pro Tools® システムと Avid® システム用の Digidesigns の無償のギター・アンプ・プラグインです。Eleven のフル・バージョンはビンテージから最新のものまで最高のギアを提供していますが、Eleven Free はその中から 2 つのギター・アンプと 2 つのキャビネット・モデルを提供します。

Eleven Free プラグインの機能

- Digidesign® の 2 つのカスタム・アンプ・モデル
- 2 つのスピーカー・キャビネット・モデル。
- アンプとキャビネットは組み合わせ自由。
- すべてのコントロールでオートメーションが可能。
- 不要なノイズを制御するノイズ・ゲート。
- 出荷時トーンやカスタム・トーンの保存と呼び出しができる設定ファイル（プリセット）。
- 互換性のあるワークサーフェスまたは MIDI コントローラーに対応。MIDI 学習機能により、連続コントローラー対応の MIDI 機器を簡単に割り当て可能。
- サンプルレート 96 kHz、88.2 kHz、48 kHz、44.1 kHz に対応。
- 最大 8 チャンネル（7.1）の操作に対応（モノまたはマルチモノ・プラグインのみ）。
- RTAS® バージョンと AudioSuite バージョン

システムの必要条件

Eleven Free を使うためには、以下の 1 つが必要です。

- Digidesign 推奨の Pro Tools|HD®、Pro Tools LE®、Pro Tools M-Powered システム（Eleven Free は RTAS バージョンと AudioSuite バージョンのみ）。
- 動作確認ができている Avid システム（AudioSuite のみ）
- Digidesign の RTAS または AudioSuite プラグイン規格に対応した他社製ソフトウェア・アプリケーション

Digidesign は、Digidesign が動作確認を行ったハードウェアとソフトウェアに対してのみ互換性を保証し、サポートを行います。

システム必要条件、および、Digidesign が動作を保証するコンピュータ、オペレーティングシステム、ハードディスク、他社の機器について、詳しくは Digidesign のウェブサイトに掲載されている最新の一覧表をご覧ください。

www.digidesign.com/compatibility

プラグインの使い方

以下のプラグインの使い方について詳しくは、「Pro Tools リファレンス・ガイド」をお読みください。

- トラックへプラグインを挿入する
- クリップ・インジケータ
- プラグイン・ウィンドウを操作する
- プラグインのコントロールを調整する
- プラグインのオートメーション
- プラグイン・プリセットを使用する
- AudioSuite を使用する

凡例

Digidesign のガイドでは、メニューの選択やキー・コマンドを以下の凡例に従って示します。

凡例	アクション
[ファイル]（File）>[保存]（Save）	[ファイル] メニューから [保存] を選択します。
Control+N	Control キーを押したまま、N キーを押します。
Control- クリック	Control キーを押したまま、マウスをクリックします。
右クリック (Windows)	マウスの右ボタンを押します。

画面に表示されるコマンド、オプション、設定の名前は、角括弧で示します。

文中のマークは、以下の内容を表しています。

Pro Tools システムを活用するために役立つヒント。

Pro Tools セッションのデータや Pro Tools システムの性能に影響がある重要な注意。

キーボードやマウスを使ったショートカット。

その他の Pro Tools ガイドのセクションとの関連を示すクロスリファレンス。

Pro Tools M-Powered

このガイドでの Pro Tools LE に関する記述は、Pro Tools M-Powered にも適用されます。

www.digidesign.com について

Pro Tools システムを最大限に活用するため、Digidesign のウェブサイト（www.digidesign.com）をご利用ください。ウェブサイトでは、以下のようなサービスを提供しています。

製品ユーザー登録 ご購入いただきました製品をオンラインでご登録ください。

サポートとダウンロード「テクニカル・サポート」と「カスタマーサービス」ではソフトウェアのアップデートやオンライン・マニュアルをダウンロードできます。「互換情報」では、システム対応状況などを確認できます。「アンサーベース」では、よくある質問を検索することができます。

トレーニング オンライン・コースで自習したり、Pro Tools の認定トレーニング・センターで実施している授業を調べてみましょう。

製品とディベロッパー ウェブの「製品情報」では、Digidesign 製品のデモ版をダウンロードできます。また、プラグイン、アプリケーション、ハードウェアなど開発パートナーの製品情報も掲載しています。

ニュースとイベント「ニュース」には、Digidesign からの最新のお知らせを掲載しています。「イベント」では、Pro Tools デモンストレーションへの参加申込ができます。

ProTools 早わかりビデオ 無償チュートリアル・ビデオのシリーズをご覧ください。早わかりビデオは、Pro Tools とプラグインをスムーズに使い始めることができるように制作されています。

第 2 章

インストール

Eleven Free は、Pro Tools システムに付属の無償の DigiRack™ プラグインと共に自動的にインストールされます。

Eleven Free プラグインのインストーラーは DigiStore（www.digidesign.com）からダウンロードすることもできます。

Eleven Free のダウンロード・バージョンをインストールする

Eleven Free プラグインをインストールするには：

1 Digidesign のウェブサイト（www.digidesign.com）から、使用しているコンピュータのプラットフォーム用インストーラをダウンロードします。ダウンロード後、インストーラが圧縮（Windows では .ZIP 形式、Mac では .SIT 形式）されていないことを確認します。

2 Eleven Free Setup（Windows）または Eleven Free Installer（Mac）アプリケーションをダブルクリックします。

3 画面の指示に従ってインストールします。

4 インストールが完了したら、［Quit］（Mac）または［Finish］（Windows）をクリックします。

Eleven Free のインストーラは、Eleven Free プラグインのファイルを以下の場所に保存します。

- ライブラリ /Application Support/Digidesign/Plug-Ins フォルダ (Mac)

または

- Program Files/Common Files/Digidesign/DAE/Plug-Ins フォルダ (Windows)

Eleven Free を削除する

プラグインをシステムから削除するときは、使用しているコンピュータのプラットフォームに合わせて、以下の要領に従ってください。

Eleven の設定ファイル（ライブラリ/Application Support/Digidesign/Plug-In Settings）とマニュアル（ライブラリ/Applications/Digidesign/Documentation）も削除できます。

Mac OS X

Eleven プラグインを削除するには：

1 起動ディスクにある[Plug-Ins]フォルダを開きます (Library/Application Support/Digidesign/Plug-Ins)。

2 以下のいずれかを行います。

- プラグインを完全に消去するには、ゴミ箱にプラグインをドラッグしてから、ゴミ箱を空にします。

または

- プラグインのコピーは保存するが Pro Tools の起動時にロードしないようにするには、[Plug-Ins (Unused)] フォルダ（ライブラリ/Application Support/Digidesign/Plug-Ins (Unused)）にプラグインをドラッグします。

Windows XP

Eleven Free プラグインを削除するには：

1 スタート・メニューから [設定]>[コントロールパネル] を選択し、[プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。

2 インストールされているアプリケーションから Eleven プラグインを選択し、[変更と削除] ボタンを押します。

3 画面の指示に従ってプラグインを削除します。

4 削除が完了したら、[OK] をクリックしてウインドウを閉じます。

Windows Vista

プラグインを削除するには：

1 [スタート]>[コントロールパネル] を選択します。

2 [プログラムと機能] をダブルクリックします。

3 アプリケーション一覧からプラグインを選択します。

4 [アンインストール] をクリックします。

5 画面の指示に従ってプラグインを削除します。

第 3 章

入力キャリブレーションとクイックスタート

この章では、Eleven Free の接続、キャリブレーション、使用するための準備について説明します。

このガイドでの Pro Tools LE に関する記述は、Pro Tools M-Powered にも適用されます。

始める前に

Eleven は、入力段階での特徴など、各アンプの最も重要な特性をモデリングするよう設計されています。プラグインが正確に応答するためには、信号のレベルが適切に設定されている必要があります。

- レコーディング済みのギター・トラックを使う場合は、12 ページのレコーディング済みトラックでの作業をお読みください。
- ギターのライブ信号を使う場合は、次のページの手順に従ってキャリブレーションを行い、最適な入力レベルに調整します。入力キャリブレーションはわずか 2 ～ 3 分で済みますが、これによって Eleven、アンプ、ファクトリー・プリセットから最良の結果を得ることができます。

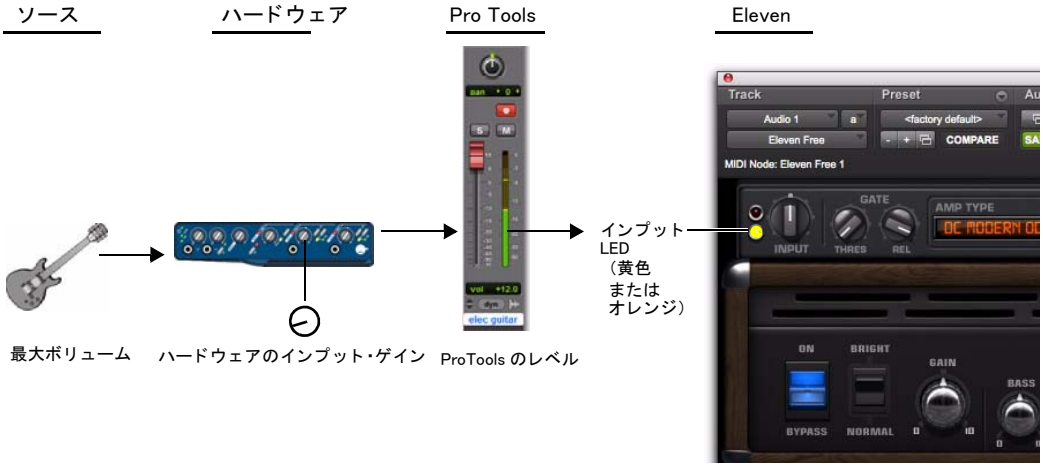


図 1. Eleven でのギターのライブ入力を調節するための基本的なゲイン段階

1：ギターを接続してソース・インプットを設定する

ペダルや別のギターも一緒に設定する場合は、最終アウトプットとして機器から出される信号が楽器レベルかライン・レベルかを確認しておくと便利です。インプットとソースの設定を選択します。（詳しくは、システムに付属の「セットアップ・ガイド」をお読みください）。

Pro Tools LE

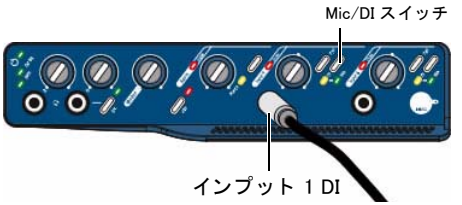
Pro Tools LE システムにギターを接続するには：

1 Pro Tools LE オーディオ・インターフェースの DI（ダイレクト・イン）インプットにギターを差し込みます。

ダイレクト・ボックスを使ってインピーダンスの高いギターのアウトプットをインピーダンスの低い信号に変換している場合は、DI インプットではなく、楽器用またはライン用インプットにダイレクト・ボックスを接続します。

2 インターフェースの正しいソース・インプット（DI）を選択してください。

たとえば、Mbox 2 Pro では、DI インジケータ LED が点灯するまで [Input 1] の [Mic/DI] スイッチを押さえます。



Mbox 2 Pro にギターを接続する

Pro Tools|HD

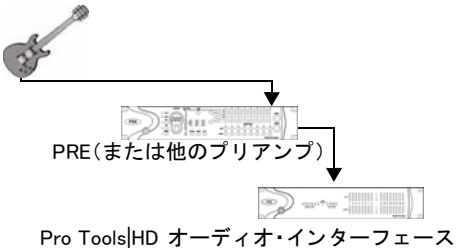
Pro Tools|HD システムにギターを接続するには：

1 Pro Tools|HD のオーディオ・インターフェースに、プリアンプ（Digidesign PRE など）または同様のユニットが接続されていることを確認します。

2 プリアンプのインプットにギターを差し込み、ソース、インピーダンスその他を設定します。

ダイレクト・ボックスを使ってインピーダンスの高いギターのアウトプットをインピーダンスの低い信号に変換している場合は、ライン・ソースまたはお使いのプリアンプの該当する場所に [Line/Inst 1] インプットを設定します。

たとえば Digidesign PRE を使う場合、フロントパネルの [Line/Inst 1] インプットにギターを直接差し込んでから、ソースを [Inst] に設定できます。



Digidesign PRE を経由して 192 I/O にギターを接続する

2：ハードウェアとレベルを設定する

接続が済んだら、以下の手順に従って最初のゲインを設定し、インプット・インジケータ（メーター）を見ながら Pro Tools ハードウェアを設定します。これにより、Eleven のゲイン構造の第一段階が設定されます。

Pro Tools LE

入力キャリブレーション用にギターと Pro Tools LE ハードウェアを準備するには：

1 Pro Tools で、[設定]（Setup）>[プレイバックエンジン]（Playback Engine）を選択し、ハードウェア・バッファを低く設定してモニターのレイテンシを抑えます。

2 ギターで、最も出力の高いピックアップまたは位置を選択し、ボリュームおよびトーン・コントロールを 10（最大）に設定します。

3 オーディオ・ハードウェアのインプット・インジケータを見ながらフル・コードを弾きます（一番大きな音で演奏します）。

4 オーディオ・インターフェースのインプット・ゲインを高くして、ハードウェアのインプット LED に強い信号（過負荷にならない程度の）を表示します。



Mbox 2 Pro の [Input 1 Gain]

Pro Tools|HD

入力キャリブレーション用にギターと Pro Tools|HD ハードウェアを準備するには：

1 ギターで、最も出力の高いピックアップまたは位置を選択し、すべてのボリュームおよびトーン・コントロールを最大値に設定します。

2 オーディオ・ハードウェアのインプット・インジケータを見ながらフル・コードを弾きます（一番大きな音で演奏します）。

3 プリアンプのインプット・ゲインを調整して、オーディオ・インターフェースのインプット・メーターに強い信号（過負荷にならない程度の）を表示します。

3: ProTools のトラックを設定する

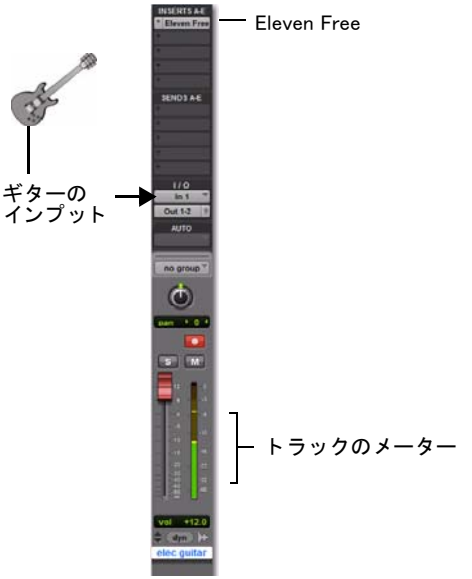
ここでは、入力キャリブレーションの最終段階で使うオーディオ・トラックの作成と設定を行います。

トラックのレベルを設定してチェックするには（すべてのシステム）:

1 [トラック] (Tracks) >[新規] (New) を選択し、モノのオーディオ・トラックを 1 つ作成します。

2 ミックス・ウィンドウで、トラックのインプット・セレクタをクリックし、ギターのインプットを選択します。

3 トラックのインサート・セレクタをクリックし、[Eleven Free] を選択します。



Pro Tools LE での入力キャリブレーションに使うオーディオ・トラック

4 オーディオ・トラックを録音可能にするか、トラックインプット・モニタリング・ボタンをオンにします。

4. Eleven Free のセットアップ

Eleven Free のインプット LED を使って最終的なゲイン調整を行い、入力キャリブレーションの作業を完了します。

Eleven Free プラグインへの入力信号のキャリブレーションを行うには：

1 インサート・スロットをクリックして、Eleven Free プラグイン・ウィンドウを開きます。初期設定のままにしておきます。



図 2. Eleven のインプット LED

2 できるだけ強く数回弾き、Eleven のインプット LED に表示されるレベルを確認します。インプット LED は、以下のレベルに応じて緑、黄、オレンジ、および赤色に点灯します。

緑色（**オフ～ −8**）信号は確認できるが、レベルが低すぎることを示します。

黄色（**−8 ～ −4**）シングル・コイルのピックアップなど、アウトプットが低いソースに最適なレベルです。

オレンジ色（**−4 ～ 0**）ハムバッカー・ピックアップなど、アウトプットが高めのソースに最適なレベルです。

赤色（**0 以上**）プラグイン・インプットがクリップしていることを示します。インプット LED をクリックして、クリップ表示をクリアします。

3 プラグインのインプット・コントロールは初期設定の 0（12 時の位置）にしたまま、ハードウェアのインプット・ゲイン・コントロールを調整して、Eleven のインプット LED が黄色またはオレンジ色になるようにプラグインへの信号のレベルを設定します。

4 キャリブレーションが済んだら、普通の強さでギターを弾きます。また、ギターのボリュームを、入力キャリブレーションに使った最大値から下げます。普通に演奏しているときにインプット LED が黄色やオレンジ色になっても気にしないでください。プラグインがクリップを示していない限り、ゲイン設定は確立されています。

5 Eleven のマスター・セクションのアウトプットつまみを回して、プラグインのアウトプット信号を調整します。

⚠ *ギターのライブ信号の入力キャリブレーションが適切に行われていれば、Eleven のインプット・コントロールを調整する必要はありません。このコントロールがアンプ・モデルにどのように作用するかについては、16 ページのインプットをお読みください。*

レコーディング済みトラックでの作業

レコーディング済みトラックが Eleven プラグインで前述のとおりにキャリブレーションされていない場合は、Eleven のインプット・コントロールを使って、アンプ・モデルのインプット段階に送られる信号のレベルを調整できます。

耳を頼りに、自分の好みに合わせて調整します。インプット LED はプラグインに入る信号のレベルを測定し、インプット・コントロールに先行するので、インプット・コントロールを調整してもインプット LED の表示は変化しません。

次の段階

Eleven で音楽の演奏を始めるには：

1 この章で説明したとおりにインプット信号のキャリブレーションが済んでいることを確認します。

2 プラグインのライブラリアン・メニューをクリックし、ファクトリー・プリセットを選択してからギターを弾きます。時間をかけてお楽しみください。プリセットでは、Eleven のすべてのアンプとコンボを試聴できます。

3 Eleven の主なコントロールについての詳細や、レコーディング、ジャム、およびミキシングに推奨するトラック設定については、第 4 章の「Eleven Free を使う」をお読みください。



Eleven 設定ファイル用のプラグイン・コントロール

設定メニューでは、プラグイン設定ファイルの保存、コピー、ペースト、管理ができます。設定を保存する方法については、16 ページの設定（プリセット）をお読みください。詳しくは、「ProTools リファレンス・ガイド」をお読みください。

第 4 章

Eleven Free を使う

以下のページでは、Eleven Free の主なセクションとコントロールを紹介し、使用方法について説明します。推奨するトラック設定やシグナル・ルーティングについてのヒントも紹介しているので、Eleven Free を最大限に活用するために役立ててください。

トラックに Eleven Free をインサートする

Eleven Free は、Pro Tools のオーディオ、AUX インプット、マスター・フェーダー、インストゥルメントの各トラックへ挿入できるリアルタイム・プロセッシング用 RTAS プラグインです。

Eleven Free は、ノン・リアルタイム / ディストラクティブ・プロセッシング用 AudioSuite フォーマットでも使用できます。

トラックに Eleven Free をインサートするには：

・ トラックのインサート・セレクタをクリックし、[Eleven Free] を選択します。

チャンネル・フォーマット

Eleven Free は、モノまたはマルチ・モノの RTAS プラグインとしてのみ使用できます。ステレオ～最大 7.1/8 チャンネルのフォーマットで使用するには、マルチ・モノ・バージョンを選択します。

サンプルレート

Eleven Free は、96 kHz、88.2 kHz、48 kHz、44.1 kHz のサンプルレートに対応しています。

種類と製造元

Pro Tools プラグインを種類や製造元で整理している場合、Eleven Free は以下のとおりに表示されます。

種類（Category） Harmonic

製造元（Manufacturer） Digidesign

Eleven Frees のパラメータを調整する

このセクションでは、マウスまたは Pro Tools ワークサーフィスを使ってパラメータを調整する方法について説明します。MIDI コントロールについて詳しくは、15 ページの MIDI と MIDI 学習機能を使うをお読みください。

マウスを使ってパラメータを変更する

Eleven Frees のロータリー・コントロールは、水平方向または垂直方向にドラッグして操作できます。パラメータの値は、上または右にドラッグすると増加し、下または左にドラッグすると減少します。

キーボード・ショートカット

・Control（Windows）または Command（Mac）を押さえながらコントロールをドラッグすると、微調整が行なえます。

・コントロールを Alt- クリック（Windows）または Option- クリック（Mac）すると、デフォルト値に戻ります。

アンプ・タイプ・セレクタとキャビネット・タイプ・セレクタを操作する

現在のアンプ・タイプまたはキャビネット・タイプの名前をクリックするとポップアップメニューが表示され、アイテムを選択できます。



前 / 次の矢印（アンプ・タイプを表示）

前 / 次矢印をクリックして選択肢を 1 つずつ切り替えることもできます。

アンプ・セレクタとキャビネット・セレクタは、MIDI を使って操作することもできます。15 ページの MIDI と MIDI 学習機能を使うをお読みください。

スイッチをオンにする

アンプ・バイパスなどのスイッチやボタンをオンまたはオフにするには、クリックして設定を切り替えます。

グループ化およびリンクされたプラグイン・コントロール

Eleven Frees のパラメータには Pro Tools のグループ（ミックス、編集、またはミックス / 編集）を反映させることができ、複数のインサートをリンクさせて操作できます。詳しくは、「Pro Tools リファレンス・ガイド」をお読みください。

オートメーションを使用する

Eleven Free のパラメータは、すべてオートメーション可能です。パラメータのオートメーションをオンにすると、コントロールのそばにある LED が点灯します。

プラグインのオートメーションについて詳しくは、「Pro Tools リファレンス・ガイド」をお読みください。

ProTools ワークサーフェスを使う

Eleven Free は、対応 Pro Tools ワークサーフェスから直接操作できます。Eleven Free は他のプラグインとともに表示され、使っているワークサーフェスのインサート・セクションからアサイン、編集、バイパス、オートメーションができます。

MIDI と MIDI 学習機能を使う

Eleven Free は、MIDI コントロール・チェンジ（CC）メッセージに対応しています。これにより、CC 対応の MIDI 装置を使って、マスター・セクション、アンプ、キャビネット、およびマイク・パラメータを遠隔操作できます。CC 対応の MIDI 機器には、Digi 003（MIDI モード）をはじめとする MIDI コントローラー、ミキサー、およびインストゥルメントがあります。

MIDI 学習機能を使うと、MIDI フットペダル、スイッチ、フェーダー、つまみなどの CC 対応のトリガーにプラグインのコントロールを簡単に割り当てることができます。また、特定の MIDI CC 値をコントロールに手動で割り当てることもできます。

保存と復元はセッションで

MIDI コントロールのアサインメントは、アサインを行った Pro Tools セッションと共に保存、復元されます。Eleven Free の設定ファイル（プリセット）には、MIDI 学習機能によるアサインメントは保存されず、復元もされません。

パラメータに MIDI コントローラーを割り当てるには：

1 システムに外部 MIDI 機器が接続されており、MIDI スタジオ設定（Windows）または Audio MIDI 設定（Mac）で認識されていることを確認します。

2 Eleven Free の任意のコントロールを右クリックします。



右クリックして MIDI 学習機能を使う

お使いの Mac のマウスにボタンが 2 つない場合は、Eleven Free のパラメータを Control- クリックして MIDI 学習メニューを表示します。Control 修飾キーでは、グループ化されたコントロールを一度に選択することはできません。

3 以下のいずれかを行います。

- [Learn] をクリックしてから、お使いの MIDI コントローラーにコントロールを移動します。任意のコントロールを動かすと、Pro Tools はそのコントロールに上記のプラグイン・パラメータを割り当てます。

または

- フット・コントローラーなどの装置の MIDI CC 値がわかっている場合は、[Assign] メニューから選択します。

MIDI アサインメントをクリアするには：

- コントロールを右クリックし、[Forget] を選択します。

設定（プリセット）

プラグインのライブラリアン・メニューから、プリセットを選択できます。

プリセットをロードするには：

・ ライブラリアン・メニューをクリックしてから、使用できる設定ファイルを選択します。



Eleven Free 設定ファイル用のプラグイン・コントロール

設定メニューでは、設定の保存、インポート、コピー、ペースト、管理ができます。

Eleven Free のプリセットとして設定を保存するには：

1 Eleven Free を好みのトーンに設定します。

2 設定メニューをクリックしてから、[Save Settings] を選択します。プリセットに名前を付け、保存場所を選択してから、[Save] をクリックします。

プラグイン・ライブラリアン・メニューと +/– ボタンを使って、設定済みの Eleven Free 設定ファイル（プリセット）をスクロールしたり選択することができます。

設定ファイルとフォルダについて詳しくは、「Pro Tools リファレンス・ガイド」をお読みください。

マスター・セクション

マスター・セクションには、プラグイン I/O（インプット / アウトプット）、ノイズ・ゲート・コントロール、アンプ・タイプ・セレクタ、およびキャビネット・タイプ・セレクタがあります。

アンプを切り替えても、マスター・セクションは変更されません。マスター・セクションの設定は、プラグイン・プリセットとともに保存、復元されます。



マスター・セクション

インプット LED

インプット LED は緑、黄、オレンジ、または赤色に光って、プラグインが過負荷になっていないかどうかを示します。インプット LED は、マスター・セクションのインプット・セクションに先立ちます。Eleven の信号経路でのインプット LED の詳細については、27 ページの Eleven Free のシグナル・フローをお読みください。

インプット

インプットつまみを動かすと、インプットがトリムまたはブーストされ、トーンとディストーションを操作できます。インプットの値の範囲は、–18 dB 〜 +18 dB です。

インプットつまみは、別途プリアンプ・コントロールが用意されていないアンプ・モデルで、ゲインを増減させる場合に便利です。また、Eleven Free で使うレコーディング済みトラックのレベルのトリムやブーストもできます。

インプットつまみの設定は、設定ファイル（プリセット）とともに保存、復元されることに注意してください。

インプット・コントロールについて詳しくは、27 ページの Eleven Free のシグナル・フローをお読みください。

アウトプット

アウトプット・コントロールでは、処理の後にプラグインのアウトプット・ゲインを設定します。このコントロールによって、ゲインを調節したり、プラグインが使用されているチャンネルでのクリップを回避できます。アウトプットの値の範囲は -60 dB 〜 +18 dB です。

ElevenFree のアウトプット・レベルを調整するには、アウトプットつまみを使います。トーンやディストーションには、アンプのマスター・ボリュームを使います。

ゲート

ノイズ・ゲート・スレッショルド

ノイズ・ゲート・スレッショルド・コントロールは、ノイズ・ゲートが開閉するレベルを設定します。スレッショルドが最小値に設定されているときは、ノイズ・ゲートに作用しません。スレッショルドの値を高くすると、強い信号だけに対してゲートが開き、サウンドを通過させます。スレッショルドの値の範囲は、オフ（-90 dB）〜 -20 dB です。

ノイズ・ゲート・リリース

ノイズ・ゲート・リリース・コントロールは、ノイズ・ゲートが開いてオーディオを通過させる時間の長さを設定します。リリースを調整して、現在のタスクに最適な設定を見つけます（速すぎると音が切り捨てられ、遅すぎると不要なノイズまで取り込まれます）。リリースの値の範囲は、10 ms から 3000 ms です。

推奨するゲートの適用例については、17 ページのノイズ・ゲートを使うをお読みください。キー（トリガー）を導いてゲートを適用する位置の詳細については、27 ページの Eleven Free のシグナル・フローを参照してください。

アンプ・タイプ

[Amp Type] では、使用するアンプのモデルを選択します（18 ページのアンプ・タイプ参照）。

キャビネット・タイプ

このセレクタでは、使用するスピーカー・キャビネットのモデルを選択します（21 ページのキャビネット・タイプとコントロール参照）。

ノイズ・ゲートを使う

ノイズ・ゲートは、不要なノイズ信号やハムを消したり、単にエフェクトとして使うことができます。

ノイズ・ゲートで不要な低レベルのノイズを消去するには：

1 第 3 章の「入力キャリブレーションとクイックスタート」の説明に従ってギターを接続し、キャリブレーションを行います。

2 次に、ギターを構えますが、演奏はしません（ボリュームは上げておきます）。ここでは、この後消去するノイズの音だけを聴きます。

3 効果を聴きやすくするため、リリースの設定を真中の位置（12 時）から始めてください。

4 スレッショルド・コントロールを時計回りに回し切って最高の値に設定し、ゲートを完全に閉じます（Eleven Free からは音が一切聴こえないはずです）。

5 ゲートが開いてノイズのカットオフ（スレッショルド）が見つかるまでスレッショルド・コントロールを徐々に下げます。

6 スレッショルド・コントロールをほんの少し上げて、再びノイズが聴こえなくなるようにします（Command（Mac）または Ctrl（Win）を押さえると設定を 1/10dB 単位で微調整できます）。これがおおよその設定です。

7 手順 3 で説明したとおりリリースの設定を下げている場合は、次へ進む前に最大値（時計回り一杯）へ戻します。

8 フル・コードを鳴らし、Eleven Free を経由したギターのディケイ（フェードアウト）を聴きます。リリース・コントロールを使う際には、ギターが自然な音で鳴るだけの値は必要ですが、ノイズ・レベルがあまり戻ってこないうちにゲートが完全に閉じるよう、ゲートを開けておく時間を長くしすぎないことが重要です。必要に応じて、[Rel]（リリース）設定を調整します。

- コードがすぐに途切れてしまう場合は、少しずつリリース設定を増やし、ゲートの閉じ方を遅くします。高い値を設定すると自然な音になり、静かな信号が唐突に切り捨てられることが少なくなります。
- リリースの値を低くすると、ゲートが速く閉じます。これによって、歯切れの良いトラックになりますが、ディケイが切り捨てられたり、音の伸びが不自然になるおそれがあります。

アンプ・タイプ

アンプ・タイプ・セレクタを使うと、アンプを選択できます。



アンプ・タイプ・セレクタ

アンプ・タイプ・セレクタからアンプを選択する

使用できるアンプの種類は以下のとおりです：

- DC Modern Overdrive
- DC Vintage Crunch

フル・バージョンの Eleven で使えるアンプについては、Digidesign のウェブサイト（www.digidesign.com）をご覧ください。

アンプ・コントロール

Eleven Free の各アンプには、モデルにした実在のアンプと同様の（まったく同じ場合もあります）コントロール一式が備わっています。以下のセクションでは、Pro Tools に表示されるアンプ・コントロールの概要について説明します。アンプ・タイプによっては、このセクションで説明するすべてのコントロールが表示されない場合もあることに注意してください。



図 1. デフォルトのアンプ・タイプのアンプ・コントロール

アンプ・バイパス

アンプ・バイパス・スイッチ（ランプ）は、キャビネットとマイクの設定は適用したまま、アンプ・モデルだけをバイパスします。初期値はオンです。バイパスに設定すると、アンプだけがバイパスされます。マスター・セクション、キャビネット、およびマイク設定は引き続き適用されます。

ブライト

[Bright] スイッチは、入力信号への高周波レスポンスを高め、歪みの音色を変化させます。一部のアンプ・モデルでは、ボリュームを低く設定するとこの効果が最も際立ちます。

ゲイン 1

ゲイン 1 では、全体的なゲインの量とアンプの感度を指定します。ゲイン 1 を低くすると動的な応答が強まり、透明で明るいサウンドが得られます。高くすると、アンプの全体的な特性が変わり、太く、オーバードライブのかかったサウンドになります。ゲイン 1 はアンプ・モデルごとに応答を変えます。また、どのような設定でも、音楽的な応答の方法がオリジナルのアンプに近くなるよう設計されています。初期値は 5.0 です。ゲイン 1 の値の範囲は 0 ～ 10 です。

ゲイン 2

ゲイン 2 はフル・バージョンの Eleven の一部のアンプでのみ使用できます。

トーン

トーン・コントロールを使うと、アンプの高音域、中音域、低音域ごとにサウンドを整えることができます。エレクトリック・ギターのピックアップでは、中低音域が強調され、高周波数の応答は弱くなりがちです。このため、中音域が強いサウンドとなり、高音域をブーストする必要が生じることがよくあります。トーン・コントロールの応答と作用の度合いは、アンプごとに異なります。

ベース

ベース・コントロールでは、アンプのトーンのロー・エンドの量を指定します。一部のモデルでは、このコントロールの応答はトレブル・コントロールの設定とリンクしています。初期値は 5.0 です。ベースの値の範囲は 0 ～ 10 です。

ミドル

ミドル・コントロールでは、ゲインの低いサウンドの中音域の強さを指定します。ゲインの高いアンプ・モデルではミドル・コントロールの効果が顕著に現れ、最小に設定しても極端に高く設定しても、アンプのサウンド形成に大きく作用します。初期値は 5.0 です。ミドルの値の範囲は 0 ～ 10 です。

トレブル

ほとんどのアンプ・モデルでは、3 つのトーン・コントロールのうち、トレブル・コントロールが最も強く作用します。この設定によって、ベースおよびミドル・コントロールの混ざり具合と強さが決まります。トレブルを高い値に設定すると、ベースおよびミドル・コントロールの効果が最小化され、トレブルが優先的なトーン・コントロールとなります。トレブルを低い値に設定すると、ベースおよびミドル・コントロールの効果が強まり、アンプのトーンが暗くなります。初期値は 5.0 です。トレブルの値の範囲は 0 ～ 10 です。

プレゼンス

プレゼンス・コントロールは、トレブル・コントロールよりさらに高い周波数を少しだけブーストします。プレゼンスは各アンプ・モデルのプリアンプ段階の最後に適用され、他のトーン・コントロールとは無関係に、音色の明るさの全体的なコントロールとして作用します。初期値は 3.0 です。プレゼンスの値の範囲は 0 ～ 10 です。

マスター

マスター・コントロールはプリアンプの出力ボリュームを設定し、パワー・アンプのゲイン・コントロールとして作用します。標準的なマスター・ボリュームの付いたギター・アンプでは、マスター・ボリュームを上げるとパワー・チューブによるディストーションが強まります。初期値は 5.0 です。マスターの値の範囲は 0 ～ 10 です。

一部ではマスター・ボリュームつまみでアンプの音を完全に消すことができると考られていますが、これは正しくありません。プラグインからの出力を消すにはアウトプットつまみ（マスター・セクションにあります）を使います。マスター・ボリュームはトーンとディストーションの調整に使います。

トレモロ

トレモロは、周波数の低い波形でプリアンプ出力の振幅を増やし、振幅を変調することによって発生します。一部のアンプではトレモロを使用できません。

トレモロ速度

速度コントロールは、トレモロ効果の間隔を設定します。トレモロ速度の LED は、トレモロ速度の間隔に合わせて点滅します。初期値は 5.0 です。

Eleven Free はテンポ・シンクには対応していません。

トレモロ・デプス

デプス・コントロールは、トレモロ効果の量を設定します。このコントロールの初期値は 0.0 で、これはオフにあたります。

キャビネット・タイプとコントロール

キャビネット・タイプ・セレクタを使って、選択中のアンプとともに使うキャビネットを選択できます。選択したキャビネットとコントロールは、アンプ・コントロールのすぐ下に表示されます。



マスター・セクションのキャビネット・タイプ・セレクタ

使用できるキャビネットは以下のとおりです：

- 4x12 Classic 30
- 4x12 Green 25W

キャビネットの名前とともに、スピーカーの数と直径が記載されています。たとえば、「4x12」とは、12 インチ・スピーカーが 4 つあるキャビネットという意味です。

ギターのトラックとシグナル・ルーティング

Pro Tools トラックとシグナル・ルーティングの設定方法は、Eleven Free を使ってどのようなレコーディングやミキシングを行うかによって変わります。このセクションでは、多くの選択肢の中から具体例を少し紹介します。

- 21 ページのドライ音をレコーディングする .
- 22 ページの Eleven Free をレコーディングする .
- 23 ページのドライ音と Eleven Free を同時にレコーディングする .
- 24 ページのレコーディング済みトラックを処理する .

ドライ音をレコーディングする

（Eleven Free を経由したモニタリング）

このワークフローでは、録音する信号を Eleven Free で処理しながら、ドライ（クリーン）音のレコーディングができます。Eleven を通した信号を聴きながら、実際には元の信号だけを録音するわけです。

アンプ、キャビネット、マイクの設定や組み合わせを変えて試聴や比較ができます。この柔軟性が、クリエイティブで強力なツールとしてミキシングとアレンジに役立ちます。

ドライ音をレコーディングしながら Eleven Free を通してモニターするには：

1 [トラック] (Track) >[新規] (New) を選択し、[新規トラック] ダイアログで [1 モノ オーディオトラック] を作成します。

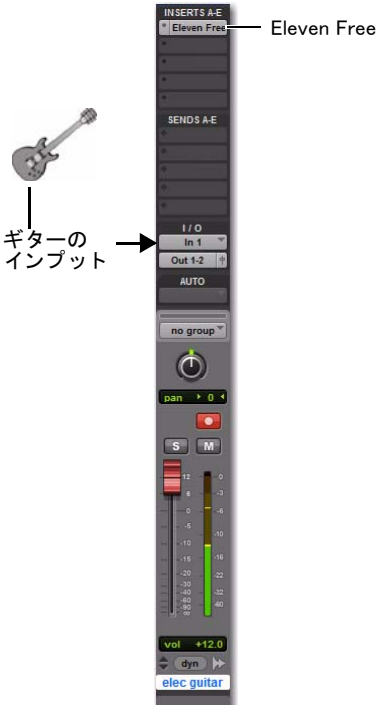
2 トラックインプットを、ギターが接続されているオーディオ・インターフェースのインプットに設定します。

3 トラックに Eleven Free をインサートします (13 ページのトラックに Eleven Free をインサートする参照)。

4 設定ファイル（プリセット）を選択するか、Eleven Free のパラメータを調整してトーンを調整します（16 ページの設定（プリセット）参照)。

5 トラックをレコーディング待ちにするか、トラックインプット・モニタリングをオンにして (Pro Tools HD のみ)、レベルを確認します。

6 準備が整ったら、Pro Tools のトランスポートをレコーディング待ちにしてから、録音ボタンを押して自分のパートをレコーディングします。



Eleven Free の音を聴きながらオーディオ・トラックのドライ音をレコーディングする

録音されるオーディオはドライ（未処理）信号のみですが、聴こえてくる音は、トラックにインサートされている Eleven Free や他のプラグインを通じて処理されています。

Eleven Free をレコーディングする

（トラックからディスクへの録音処理）

このワークフローでは、トラッキングを行いながら、Eleven Free のオーディオ・アウトプットをディスクに録音します。通常、他のドライ音のトラックは録音されません。

この方法では、トラックのトーンは、トラッキング時に使用した元の Eleven Free のトーンになります。ここでは 2 つのトラック（AUX インプットとオーディオ・トラックを 1 つずつ）が必要ですが、トラッキング後はプラグインを使用停止にしたり削除して、処理リソースを開放できます。

演奏しながら ElevenFree とともにギターを録音するには：

1 [トラック]（Track）>[新規]（New）を選択します。

2 以下のとおり [新規トラック]（New Tracks）ダイアログを設定します。

- モノの AUX インプット・トラックを 1 つ作成します。
- [行追加]（+）ボタンをクリックします。
- モノのオーディオ・トラックを 1 つ作成します。
- [作成]（Create）をクリックします。

3 ミックス（または編集）ウィンドウで、以下の方法で AUX インプットを設定します。

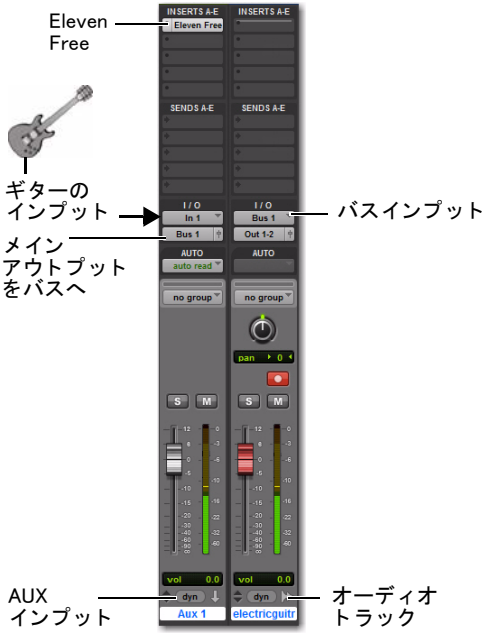
- インプット・セレクタをクリックして、ギターのインプット（ギターが接続されているオーディオ・インターフェースのインプット）を選択します。
- アウトプット・セレクタをクリックして、バス 1 を選択します。
- インサート・セレクタをクリックし、[Eleven Free] を選択します。

4 以下の方法でオーディオ・トラックを設定します。

・ インプット・セレクタをクリックして、バス 1 を選択します。

および

・ オーディオ・トラックを録音可能にします。



Eleven Free を録音する（アウトプットを記録する）

5 すべてのトラックのレベルと Eleven Free のインプット LED を確認して、入力信号が過負荷になっていないことを確認します。

6 準備が整ったら、Pro Tools をレコーディング待ちにしてから、録音を開始します。

Eleven Free からの出力がディスクに録音されます。RTAS 処理リソースを節約する必要がある場合は、レコーディング後に Eleven Free を削除または使用停止にすることができます。

ドライ音と Eleven Free を同時にレコーディングする

処理されていないドライ音のトラックと、Eleven Free で処理したトラックを同時に録音することができます。この方法では、ドライ音（トーンを試す前の状態）のトラッキングと、元のトラッキング・セッションで使われたトーンの録音を同時に行うことにより、双方の良い部分を活かすことができます。以下のとおり、これには 2 つのオーディオ・トラックが必要です。

ギターのドライ音と Eleven Free で処理した音を同時に録音するには：

1 [トラック] (Track) >[新規] (New) を選択します。

2 [新規トラック]ダイアログで[2 モノ オーディオ トラック] を作成します。

3 ミックス（または編集）ウィンドウで、以下の方法で 1 番目（左端）の新規オーディオ・トラックを設定します。

・ インプット・セレクタをクリックして、ギターのインプット（ギターが接続されているオーディオ・インターフェースのインプット）を選択します。

・ アウトプット・セレクタをクリックして、バス 1 を選択します。

・ インサート・セレクタをクリックし、[Eleven Free] を選択します。

・ オーディオ・トラックを録音可能にします。

4 以下の方法で 2 番目のオーディオ・トラックを設定します。

・ インプット・セレクタをクリックして、バス 1 を選択します。

および

・ オーディオ・トラックを録音可能にします。

5 すべてのトラックのレベルと Eleven Free のインプット LED を確認して、入力信号が過負荷になっていないことを確認します。

6 準備が整ったら、Pro Tools をレコーディング待ちにしてから、録音を開始します。

1 番目のオーディオ・トラックにドライ音のギターが録音され、Eleven Free で処理された後、2 番目のオーディオ・トラックにバス送りされてディスクに録音されます。

レコーディング済みトラックを処理する

Eleven Free ではレコーディング済みのギター・トラックをはじめ、ほとんどすべての素材を処理できます。

Eleven Free でレコーディング済みトラックの音を聴くには（再レコーディングは行いません）：

1 オーディオを Pro Tools のオーディオ・トラックにインポートし、配置します。

2 オーディオ・トラックのアウトプットにバス 1 をアサインします。

3 以下のとおりに AUX インプット・トラックを作成、設定します。

- トラックのインプット・セレクタをクリックして、バス 1 を選択します。

および

- インサート・セレクタをクリックし、[Eleven Free] を選択します。

4 再生を始め、Eleven Free のインプット LED を見てレベルを確認します。Eleven Free のインプットがクリッピングしていないことを確認します。

5 音を聴きながら、Eleven Free のインプットつまみを動かしてインプット・レベルを上下に調整します。

6 ゲイン構造を設定したら、以下のいずれかを行います。

- 基本の音色を得るために、いくつかの設定ファイル（プリセット）を試してください。
- アンプ・コントロールを調整します。
- 別のキャビネットに替えてみます。

7 別のプラグインを適用したり、AUX インプットを他のトラックにバス送りして、さらに処理を施します。

Eleven Free でトラックを処理したり、もう一度録音するには：

1 オーディオを Pro Tools のオーディオ・トラックにインポートし、配置します。

2 以下の方法でソース・オーディオ・トラックを設定します。

- オーディオ・トラックのアウトプットにバス 1 をアサインします。

および

- インサート・セレクタをクリックし、[Eleven Free] を選択します。

3 [トラック]（Track）>[新規]（New）を選択し、モノのオーディオ・トラックを 1 つ作成します。

4 以下のとおりに新規オーディオ・トラックを設定します。

- トラックのインプット・セレクタをクリックして、バス 1 を選択します。

および

- インサート・セレクタをクリックし、[Eleven Free] を選択します。

5 新規オーディオ・トラックをレコーディング可能にします（Pro Tools HD を使っている場合は、トラックインプット・モニタリングをオンにします）。

6 再生を開始し、音を聴き始めます。

7 音を聴きながら、Eleven Free のインプットつまみを動かしてインプット・レベルを上下に調整します。

8 納得のいく状態に調整できたら、録音を始める位置を選択して（時間の範囲を選択して）から Pro Tools のトランスポートをレコーディング待ちにし、再生ボタンを押して録音を始めます。

ヒントとアドバイス

このセクションでは、セッションに Eleven Free を組み込む方法についてのヒントとアドバイスを紹介します。

プラグインのリソースを管理する

システム・リソースを確保したり使用を最小限にとどめる必要がある場合は、効果を加えたトラックをバス経由で録音し、Eleven Free のトーンをディスクに保存することができます。22 ページの Eleven Free をレコーディングするをお読みください。

または、AudioSuite バージョンを使って、Eleven Free のトラックをディスクに記録します。AudioSuite は、ループなどの短いフォームのギター素材を処理する場合に特に役立ちます。

トラックのテンプレートとセッション・データのインポート

Pro Tools 8.0 以上では、クイック・スタート機能を使ってテンプレートが扱えます。この機能を使ってセッションのテンプレートとトラック構成の独自のライブラリを構築する方法については、「Pro Tools リファレンス・ガイド」をお読みください。クリエイティブな瞬間が雑務によって中断されないようにする良い方法があります。

ProTools の［セッションデータをインポート］（Import Session Data）機能を使うと、あるセッションから別のセッションにトラックをインポートできます。I/O およびシグナル・ルーティングのアサイン、プラグイン、設定もインポートされます。この機能は、さまざまな Eleven Free の設定のテンプレートを保存したり呼び出すための方法として使うことができます。

Eleven Free の適用方法を変えて複数のトラックを設定した場合は、セッション名を控えておきます。次回に同じ設定を使う場合には、［セッションデータをインポート］（Import Session Data）コマンドを使って、設定済みのトラックを新しいセッションにインポートします。

［セッションデータをインポート］（Import Session Data）について詳しくは、「Pro Tools リファレンス・ガイド」を参照してください。

Eleven の他に：推奨するエフェクト

ギター初心者または Pro Tools 初心者の方には、Eleven Free のギター・トラックに追加できる簡単なエフェクトを紹介します。使用するのは、システムに組み込まれている無償の DigiRack プラグインだけです。

バス送りとサブミキシング

プラグインやエフェクトというよりは一般的な処理工程というべきものですが、ギター・トラックが複数ある場合、これらをステレオの AUX インプットにサブミックスして、各トラックのレベル・コントロールを 1 か所で制御できるようにすることが多いです。これは、圧縮やリミッティングの適用、ステム・ミックスの作成など、さまざまな実用面で特に役立ちます。ミキシングとサブミキシングでの設定とアドバイスについては、「Pro Tools リファレンス・ガイド」をお読みください。また、エフェクトについての以下のアドバイスを参考にしながら試してみましょう。

ダイナミクス

圧縮、リミッティング、伸長、ゲートは、どれもギターに役立つエフェクトです。個別（単一）処理とサブミックス（共有リソース）処理のシグナル・ルーティングを組み合わせて各種ダイナミクス処理を行うと、さまざまな結果が得られます。例は以下のとおりです。

・ トラックでたまに発生するダイナミクスの異常を制御することだけが目的であれば（超過している値を引き下げることだけが必要ならば）、各トラックにリミッターを付けてみましょう（Eleven Free の後に）。

・ 複数のリズム・トラックやトーンを 1 つにまとめるには、ステレオの AUX インプットにこれらをバス送りし、この AUX インプットに圧縮またはリミッティングを強くかけます。Dyn 3 や Bomb Factory のプロセッサなどのさまざまなダイナミクス・プラグインを試し、素材に最適なプラグインを見つけます。このエフェクトを実行するには、思い切って極端な圧縮率を適用します。

EQ

単純な EQ 処理を使って、一部のギターを演奏する際に信号が大きくなり過ぎる部分を緩和することができます。内蔵されている任意の EQ プラグインを使うと、強烈なシェルフやバンド・リミッティングを特殊なエフェクトとして試したり、フィルター・スウィープにオートメーションを実行してワウ・スタイルのエフェクトをシミュレートすることができます。

エコーとディレイ

増幅した信号にエコーやディレイをかけるには、Eleven Free のトラックを AUX インプットにバス送りし、この AUX に Delay プラグインを配置します。マルチタップやピンポンなどができる他のディレイ・プラグインも試してみましょう。

シグナル・ルーティング、ディレイ、EQ、ダイナミクスなどの処理に関する他のアイデアについては、他の Pro Tools ガイド（「DigiRack プラグイン・ガイド」、「Bomb Factory プラグイン・ガイド」など）をお読みください。

Eleven Free のシグナル・フロー

インプット・ソースから Eleven Free を経由してアウトプットに送られる信号の流れを図に示します。

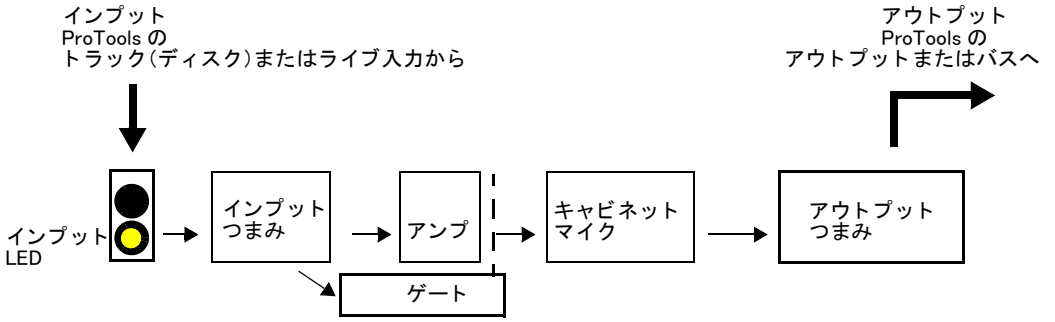


図 2. Eleven Free のシグナル・フロー

注意

プラグインはプリ・フェーダー

Pro Tools のインサート（プラグイン）は、ディスク / ライブ入力の後に配置されますが、プリ・フェーダーです。トラックのフェーダーは、同じトラックにインサートされているプラグインへの信号に作用しません。これは Eleven Free だけでなく、他の Pro Tools インサートでも同様です。

インプット LED はインプットつまみの前

インプット LED はマスター・セクションのインプット・セクションの前に配置され、各アンプの最初のインプット段階に先行します。これにより、Eleven Free の信号経路に入る前に、信号でクリッピングが発生していないかどうかを確認できます。信号がインプットでクリッピングしている場合は、インプット LED が赤く点灯します。（これが起きた場合は Eleven Free の前に Digidesign の Trim プラグインを挿入し、Trim プラグインのゲイン減衰機能を使ってゲインを下げてください。）

インプットつまみとアンプ・ゲイン

Eleven Free には、プラグインへの異なる 2 つのインプット・ゲイン段階があります。

・ マスター・セクションのインプットつまみは、アンプ・モデルに入る前の信号のレベルに作用します。

および

・ 各アンプのゲインつまみは、特定のアンプ・モデルの主要なインプット段階を操作します。

このため、別のプリアンプのないアンプでゲインを増減させる場合には、インプットつまみが役立ちます。

ノイズ・ゲートはインプットつまみの後

ノイズ・ゲートは入力信号によってトリガーされます。このゲートはアンプの出力に適用され、開いているときはアンプからキャビネット・モジュールに音を通過させ、閉じているときはスピーカー・キャビネットへのアンプの出力をミュートします。

索引

A
AudioSuite 25

D
DSP 25

E
Eleven で処理したトラック 22
Eleven をインサートする 13

H
Harmonic 13

M
MIDI 15
　テンポ・シンク 20
M-Powered 2

P
Pro Tools
　LE 7
　M-Powered 7
Pro Tools M-Powered 2
Pro Tools の設定とシグナル・ルーティングの例 21

あ
z（高と低）8
アウトプット 17
アンプ
　コントロール 19
アンプ・タイプ 18
　ナビゲーション 14
アンプ・バイパス 19

い
インピーダンス（高と低）8
インプット
　入力キャリブレーションでの LED の色 11
インプット LED 16
インプット（トリム）16

お
オレンジ色 11

き
キーボード・ショートカット 14
キーボード入力のショートカット 14
キャビネット 21
キャビネット・タイプ 21
　ナビゲーション 14
キャリブレーション（入力）11
強度（トレモロ）20

け
ゲイン 1 19
ゲイン 2 19
ゲート 17

こ
コントロール 14

さ
サンプルレート 13

し
シグナル・フロー 27
シグナル・ルーティングとトラック設定（例）21
種類 13, 14
シングル・コイル 11

す
スタンバイ 19
ステレオ 13
スレッショ ルド 17

せ
製造元 13, 14
設定ファイル 16

そ
速度 20

た
タップ 26

て
デプス 20
テンプレート 25
テンポ・ シンク 20

と
トレブル 20
トレモロ 20

の
ノイズ・ ゲート 17

は
バイパス
　アンプのみ 19
バッファ 9
ハムバッカー 11
パラメータを調整する 14

ひ
ビート・ クロック（ テンポ・ シンク参照）20

ふ
フォーマット（ モノまたはマルチ・ モノ）13
ブライト 19
プラグイン
　アンインスト ールする 6
　インスト ールする 5
　オート メーショ ン 2
　削除する 6
プラグインのオート メーショ ン 2
プラグインをアンインスト ールする 6
プラグインをインスト ールする 5
プラグインを削除する 6
プラグイン・ ウィンドウ 2
プリセット 16
プレゼンス 20

へ
ベース 20

ま
マイク・ タイプ
　ナビゲーショ ン 14
マスター 20
マスター・ セクショ ン 16
マルチチャンネル 13

み
ミドル 20

も
モノ 1, 13
モノ / マルチ・ モノ 13

ら
ランプ（ バイパス）19

り
リソース 25
リリース 17

れ
レコーディング 22
　ドライ 21
　ドライ音と Eleven を同時に 23
　レコーディング済みト ラックを処理する 24

digidesign
A division of Avid

www.digidesign.com

DIGIDESIGN
〒107-0052
東京都港区赤坂2-11-7 ATT新館ビル 4F
アビッドテクノロジー株式会社内

製品情報
Tel: 03.3505.7963
Fax: 03.3505.3417

テクニカル・サポート
Tel: 03.3505.4762
(HD/TDM: #30, LE: #31)
Fax: 03.3505.3417

カスタマー・サポート
Tel: 03.3505.4762 (# 22)
Fax: 03.3505.3417